市報とおかまち　平成18年（2006）December　第41号
TOKAMACHI
12.10

だんだん

木に込める思い

「こいからが楽しみだの」そう言って入山出身の山本又司さん（中条八幡・69歳）はブナの苗木をいとおしむように植えていきます。池谷で行われた植樹は、地域の力を呼び覚まし未来の夢も植えていく催しとなりました。（P2～3参照）

主な内容

- ［特集1］育て！いのちの森 …… 2-3
- ［特集2］はぐくみのまちづくりフォーラム 4-6
- いじめ・不登校相談窓口 …… 7
- 表彰おめでとうございます …… 8-9
- 第58回十日町雪まつり …… 10-11
- 近くて楽しい市内のグレンデ …… 12
- 吉田クロスカントリーハウス完成 …… 13
- 地域の風～支所からのたより～ …… 14-15
- ときめきネットワーク ほか …… 16-17
- まちの話題　TOPICS …… 18-20
- 年末年始の市の業務・雪処理に注意 …… 20-21
- お知らせ・ガイド …… 22-23
- ジュニア芸術祭 ー八箇小学校ー …… 24

愛称「だんだん」は、方言のあいさつ「だんだんどうも」、「河岸段丘・棚田」、「ステップアップ」などを表しています。

特集1

育て！いのちの森

池谷で植樹の祭典

11月26日(日)、池谷集落で「トークと植樹と音楽の祭典」が開催されました。地域住民と首都圏の若者（ボランティア）など約50人の手により、集落の高台にある原野約10ａに広葉樹約120本が植えられました。

ブナとイタヤカエデのいのちの森

催しは、池谷の住民と今は集落がなくなった入山の出身者などでつくる十日町市地域おこし実行委員会（山本浩史代表）が主催し、中越大震災以来池谷で支援活動を続ける国際的ボランティア組織、ＮＰＯ法人ＪＥＮ（本部・東京都）が運営を支援。植樹をしながら全国を歩いている中渓宏一さんの指導でブナ40本とイタヤカエデ80本が植えられ、苗木には植えた人それぞれの思いが書かれた木札が付けられました。

植樹終了後、オーストラリア先住民族アボリジニの民族楽器ディジュリドゥ奏者のＫＮＯＢ（ノブ）さんが木に命を吹き込む演奏を披露。地元の人たちによる天神ばやしとのセッション（合奏）で締めくくりました。

植樹した場所は中渓さんにより「いのちの森」と命名され、参加者は用意されたけんちん汁に舌鼓を打ちながら再会を約束していました。

小さな積み重ねが活気に

入山出身で今も同地で耕作を続ける主催者代表の山本さん（太子堂・55歳）は、「地震のときから、ＪＥＮの皆さんの支援を受けながら、毎年9～10回いろんな催しをボランティアの皆さんとわれわれの手作りで行っています。といっても、さつまいも植えやトマトの収穫といった農家の手伝いに毛が生えたようなもんですけど（笑）。でも、小さなことを積み重ねたおかげで地域に活気が生まれました。植樹もその一環。次世代に受け継ぐ息の長いプロジェクトだからこそやりがいがあります」と目を輝かせます。

池谷と入山が、海外の戦災・災害復興活動などで実績のあるＪＥＮの支援を受けるようになったのは平成16年の中越大震災直後。初期の物資援助のほか壊れた建物の修理や片付け、除雪や農作業の手伝いなど、その都度公募したボランティアの人たちとの協働で支援活動が続けられました。活動は、被災した地域の復興にとどまらず、過疎と高齢化が進む中山間地域の活性化を目指すものへと進んできています。

天神ばやしの斉唱と重低音のディジュリドゥの音色が山あいにこだましました

参加者も元気をもらう

ＪＥＮの広報担当で当日の進行役を務めた村沢繭子さん（東京都世田谷区・31歳／写真上）は、「私たちは海外の支援活動を中心にしてきましたが、地震の生の情報を受けてこちらに入るようになりました。実際にかかわってみると、地震の傷跡を復旧するだけでなく地域全体の振興にかかわることが大事だと感じるようになり、２年間活動を続けてきました。全国に多数いるボランティア希望者にとっても受入先・拠点があることが、安心して参加できる要素になっているようです」と、地域と人をつなぐ役割が重要だと言います。

池谷・入山とＪＥＮをつなぐ役割を担ったのが、６年前から入山に創作活動の拠点を持つ日本画家の稲田善樹さん（東京都・稲城市・67歳）。

「春から秋にかけて、ここで日本の原風景をモチーフにした絵を描いています。２年前地震に遭ったのもそんなときです。インターネットメールで被害の状況をリアルタイムに発進し、ＪＥＮの皆さんにも支援を呼びかけました。それが今のような形になってありがたいです。地域の人たちも元気になっているし、ボランティアの人たちもその元気に触れていやされて帰っていきます。行政とも連携して息の長い活動にしていきたいですね」。参加者にとっても貴重な体験になっているようです。

今回初めて参加したという上松倫子さん（東京都立川市・34歳）は、「インターネットで活動を知り、３日間いろいろな体験をさせてもらいました。思っていたより大きなプロジェクトで、皆さん『元気に生きている』って感じですね。仕事（公園・緑化関連）にも生かせそうです」と実りが多いと言います。

昔のムラがよみがえった

復興支援を受けながら、ボランティアの皆さんを受け入れている地域の人たちはどう感じているのでしょうか。

「イベントが目白押しで、そのたっぴムラ中総出で参加してらんそ。今6軒・12人だども催しがあるときは何倍にもなる（笑）。負担？そっけんことはねぜの。行事に合わせて仕事の段取りはできるし、自分の子や孫が来たみてに、みんな遊び感覚で楽しんでるて」。と笑うのは曽根藤一郎さん（池谷・70歳）。

集落がまとまって行動することできずなも深まったと言います。「地震のおかげその。地震は悪いことばっかじゃなかったの。まとまりが良くなって、都会の人たちのいやしの場として受け入れる余裕も出てきた。昔のムラの良さがよみがえった感じだの。また青春だぜの（笑）」と言って、曽根さんは「みんなの森　やさしく育てよう」と書いた木札を苗木に結び付けました。

「いのちの森」が本当に森の姿になるのは数十年後です。

特集2

はぐくみのまちづくりフォーラム

できることから やってみよう

いじめや不登校、通学時の安全性への不安など全国的に子どもたちを取り巻く教育環境が問われています。全市一丸となって子どもたちをはぐくむための運動を進めようと、11月24日㈮、クロス10で「はぐくみのまちづくりフォーラム」（市・市教育委員会・青少年育成市民会議主催）が開催され、市民や教育関係者など約600人が集まりました。

「できることから　やってみよう」をスローガンに、今後、全市に運動を広めるための第１ステップとして開催されたこのフォーラムでは、将来を担う子どもたちや若者が健やかに成長し、社会に適応して生きていく力を身につけていくために、５つのテーマを掲げました。

基調講演とシンポジウムの主な内容をお伝えします。

基調講演

「夢をはぐくむ ～今、子育てに求められているもの～」

講師　県立新潟女子短期大学教授　**大桃伸一氏**

■教育とは、子育てとは

子育てとは、子どもの中にしまい込まれている「タカラモノ」を発見し、育てていく、夢のあるすばらしい仕事だと思います。今、子どもをめぐる心痛む事件が次々と起こっています。生まれたときから悪い子はいません。それが、なぜ、いじめや犯罪に走るようになってしまうのか。子どもは、家庭と学校と地域でしか生きられません。それらが子どもをまっとうに育てる力を失ってしまったのです。そのような中で、もう一度子育ての原点に帰って教育を考えてみる必要があります。

■子育てに必要なこと

以前は、子どもはまちの将来を背負って立つ地域の宝であり、みんなで育てるものという意識がありました。子どもが地域という広い大地の中で育っていれば、例え親の子育てが行き届かなくても、子どもは広く根を張り健やかに育つことができます。

イギリスの心理学者は、子育てで最も大切なことは子どもが親との間に「基本的信頼感」を持つということだと述べています。この基本的信頼感とは、どんなときでも親は自分を愛し支え、守ってくれるんだという気持ちを自然と持てることです。

■子どものサインを見のがさない

最近、親や教師の、子どもの危機的サインを読み取る力、命の叫びを聞く力が衰えているから、子どもの不幸な事件が起きているのだともいわれています。そのためには、親が親の論理で子どもを見放すのではなく、聞き上手になることが大切です。

■生活リズムの確立

子どもたちの「早寝、早起き、朝ごはん」運動が勧められています。この生活習慣が、体力・学力の向上に結び付きます。また、読書への親しみや豊かな生活体験は、子どもたちの心を育て学力向上に結びつけます。子どもは親を見て育ちます。親がモデルにならなければなりません。

■家庭・学校(園)・地域の連携

学校や保育・幼稚園では、多くの先生が一生懸命子どもたちのことを考えて教育に当たっています。教育はお互いが信頼し、良いところを伸ばしていくことが大切です。親が先生を批判していたのでは、子どもは心豊かに育ちません。親と先生が力を合わせて子どもを育て、それを地域の人たちが支えていくことが現在の子育てに求められています。

◆コーディネーター
大桃伸一氏（県立新潟女子短期大学教授）

◆パネラー
小川元一氏（青少年育成十日町市民会議副会長）
服部令子氏（中里なかよし保育園園長）
西野和之氏（十日町市・津南町PTA連合会会長）
水落静子氏（十日町市子育て応援ネットワーク）
林　正栄氏（十日町市教育委員会学校教育課課長）

「はぐくみのまちづくり」５つのテーマ

1.食べることを考えよう
2.子どもの安全を守ろう
3.読書に親しもう
4.元気にあいさつしよう
5.体力・たくましさを伸ばそう

シンポジウム

「子どもたちを育むために 今できることは」

▼地域で安全確保を

昭和60年代にＰＴＡの役員になったころ、校内暴力やいじめなどの問題が多くありました。そのことにＰＴＡや地域が一丸となって撲滅に取り組み改善を図ってきました。そんな経験から、現在も子どもを育てよう、安全を確保しようという思いがあります。最近、地区の防犯について話し合うことがあり、不審者対策として子どもたちの下校時にボランティアで見張りをする組織を作ってはどうかという話も持ち上がりました。私は安全対策について提案します。まず、家庭や学校、地域ができることとして、通学路の危険な場所をチェックして、そこを地域の人たちで見回る。また、暗いところには街灯を取り付けるなどの身の周りの防犯対策を施すことが大切だと思います。そして、親が子どもにきちんと危険な場所を教え諭すことが必要不可欠だと思っています。

そして、あいさつはしっかりと子どもの名前を呼んで交わし、「気を付けてね」などの一言を添えてほしいと思います。それは子どもだけでなく大人でもいえることです。言葉を受けた人はその気持ちは強く残るものです。あいさつは地域を明るくするものだと思っています。

小川元一氏

▼親子のふれあいを大切に

共働き家族が増える中で、３歳未満児の入園も増えてきています。また、保育サービスが拡充する一方で、親子のふれあいの時間は少なくなってきています。その影響からか、はしの持ち方や皿を持って食べるとか食事のマナーができなかったり、偏食が多く野菜を食べない子が多くなってきています。言葉の発達が遅い子、３歳で入ってきてもオムツが取れていない子などが多く、４歳５歳と年齢が上がってきてもなかなか規則正しい生活習慣が身に付きません。転んでも手が出ないで顔面を打ったり、散歩して帰ってくると、「あー疲れたー」と言ったりもします。自然が多い十日町市でも、都会と変わらない傾向にあるような気がします。

保育園では連絡帳や園だよりを通じて、家庭への働きかけをしていますが、まずはお母さんと保育士の信頼関係が築かれないと良い連携がとれません。そして、親子でふれあう時間がより多くなることで、子どもたちは明るい表情に変わります。お父さんお母さんが変われば子どもは大きく変わっていきます。

服部令子氏

▼食育の大切さ

「早寝、早起き、朝ごはん」運動が勧められている中、子どもたちの欠食の頻度は年齢が増すにつれ増えてきています。朝ごはんが食べられないのは生活習慣が早寝、早起きになっていないからだと思います。この乱れを許すのは大人の責任が大きいように思います。朝食をとらない要因に、「用意されていない」ということがあげられています。食べる習慣や雰囲気を作る努力も必要です。作る、並べる、食べさせる、孤食させない、楽しく食べる。この食の基本を家庭で習慣化させる必要があると思います。

いじめが社会問題になっています。食と「イライラ、ムカツキ、キレル」は大きく関係しています。そのこと

西野和之氏

からも、食育の大切さが分かります。子どもの心の変化は必ず食に出てきます。心の健康状態、心の栄養失調を見抜くことが必要ではないでしょうか。食を通して、心のサインを見逃さないようにしたいです。

▼お母さんの力で子どもたちに笑顔を

水落静子氏

絵本の読み聞かせや紙芝居、親子遊びなどさまざまな子育てサークルをネットワークで結んだ「とおかまち子育て応援団」が、今年組織されました。さまざまな分野の人たちの情報交換の場として、またお母さんたちの相談や話し合いの場として、仲間作りの輪が広がっています。

私はその中の「十日町おやこ劇場」に所属しています。本物を見ること、子どもたちが自主活動できる場所を設けることを目的に設立して、来年で15年になります。生の舞台を見ることで、想像力の育成と心の文化をはぐくみ、そして何より親子でともに笑ったり泣いたりする感動を共有したいという思いがあります。

おととしの地震では、全国の団体から支援をいただきました。震災におびえる子どもたちを勇気付け、負けない力を培ってほしいとあちこちで公演が行われました。新市になって、地域も広がり新しい仲間とも出会えました。多くの子どもたちにわくわくどきどき感を持ってもらいたいです。子どもの笑顔を見ると母親が変わり家庭も変わり、地域のつながりも深まっていくように思います。お母さんたちのパワーを強く感じます。

▼学校と地域の連携を

林　正栄氏

学校教育の中では、学校が地域の教育力をどう生かしているかが1つのテーマでもあります。地域によっては、「朝食欠食をなくそう運動」や栄養バランスのよい食事を食べさせるレシピの交換なども行われています。また、子どもたちの安全を守る取り組みとして「イエローリボン運動」が行われていて、学校・PTA・地域の人たちがあいさつの励行と登下校時のパトロールを実施しています。これらの取り組みは大人が行動に移さないと実施できないことです。子が大人から学び、大人が子から学ぶ。この相互作用が運動につながります。自分の子だけ見て満足している大人が多くなっています。親同士、親と子どもたちが互いにかかわれる場作りが大切です。

結び

青少年育成十日町市民会議
会長　**西野幸雄氏**

今日の講義やシンポジウムでの提案を、今後の青少年育成活動に生かし、各家庭や学校、地域で実践していくことが大切です。私は、まず家庭の教育が何より大切だと思っています。最近は、何か問題があると学校や行政に矛先が向けられますが、ときにはしかりながらも諭す教えが大切ではないかと思います。

青少年育成会議も各地域の育成団体と一丸となり、行政とも手を携えながら、今後「はぐくみのまちづくり運動」に取り組んでいきたいと思います。

フォーラムの開催にあたり十日町市手話奉仕員の岩田哲さん、春日克美さん、山下敏恵さんから協力をいただきました。

公民館まるごと冒険ひろば

11月26日㈰、中央公民館ではぐくみのまちづくりの一つとして「公民館まるごと冒険ひろば」が開催されました。

これは、「とおかまち子育て応援団」に参加する子育てサークルなどが、中央公民館をまるごと使ってさまざまな遊びを企画・実践したもので、市内の子どもたちなど約450人が参加しました。

子どもたちは、お化け屋敷や読み聞かせなどの各コーナーを次々に回りながら楽しい遊びを体験しました。また、ポイントを集めておもちゃと交換するかえっこショップや公民館内を探検する屋内ウォークラリーも大人気。子どもたちは大喜びではしゃぎ回り、楽しい一日を過ごしました。

子どもたちに大人気のかえっこショップ

ひとりで悩まないで相談しましょう

いじめにより児童・生徒が自ら命を絶つという痛ましい事故が全国で発生しています。このような事故を二度と繰り返さないためにも、学校・家庭・地域が連携し、「命の大切さ」と「死ぬことは解決につながらないこと」を強く訴えていきましょう。そして、子どもが発している悩みのサインを見つけるためにも、子どもに言葉をかけたり対話をしたりしましょう。

いじめや不登校などで悩みがあるときは、専門の相談員が対応する相談窓口があります。児童・生徒、保護者の皆さん、一人で悩まず気軽に相談してみませんか。

いじめ・不登校相談窓口（月曜～金曜日）

●いじめ・不登校など学校教育全般に関する相談は…

にこやかルーム川西教室	☎７６８－３６１４	（９時～17時）
にこやかルーム十日町教室	☎７５２－７５６５	（９時～14時）
少年育成センター	☎７５７－８９１８	（９時～17時）

●いじめ、体罰、虐待、差別など人権に関する相談は…

法務局十日町支局	☎７５２－２５７５	（８時30分～17時）

●非行やいじめなどあらゆる少年問題に関する相談は…

十日町警察署	☎７５２－０１１０	（９時～17時45分）
長岡少年サポートセンター	☎０２５８－３６－４９７０	（８時30分～17時15分）

●いじめ問題に関する相談は…

中越いじめ相談	☎０２５８－３５－３９３０	（９時～24時）
県立教育センター	☎０２５－２６３－９０２９	（９時～24時）
悩みごと相談テレホン	☎０２５－２６３－４７３７	（９時～24時）

●18歳未満の子どもや女性に関する相談は…

南魚沼児童相談所	☎０２５－７７０－２４００	（８時30分～17時15分）
子ども・女性電話相談	☎０２５－３８２－４１５２	（９時～22時）

土日や祝日も人権擁護委員が相談に応じます。

人権擁護委員

尾身静榮さん	☎７５７－６９７１
滋野豊子さん	☎７６８－２６２６
齋藤馨爾さん	☎７６３－２１６６
樋口京子さん	☎５９６－２１０７
渡邊トシさん	☎７６５－４２５７

表　彰

おめでとうございます

さまざまな分野で永年にわたり活躍・貢献した皆さんが国・県などから表彰されました。晴れの栄誉に輝いた皆さん、おめでとうございます。

文部科学大臣表彰

田村喜一さん
（昭和町１・79歳）

永年にわたる勤労青年の文化教養の向上及び人格形成に寄与した功績で、田村喜一さんが文部科学大臣表彰に輝きました。

田村さんは、昭和23年から十日町中学校、26年から十日町高校で教鞭を執る傍ら、定時制高校入学準備の補習のために開設された「十日町青年講座」の講師を務めました。その後28年に「十日町青年学級」に変わってからも、文芸や映画評論などの講師として勤労青年に親身に寄り添い、長年学級生の学びを支え続けました。

田村さんは、「当時は青年学級生は大勢いて、積極的に受講していたので活気があり、やりがいがありました。若者の発言は刺激になりとても楽しかったです。定時制高校と映画と青年学級で、１週間の内５日は夜家を留守にしていました。１か月で10本近く映画を観ていましたね」と当時を懐かしんでいました。

厚生労働大臣表彰

田村シゲさん
（中条旭町・72歳）

永年にわたり、地域の栄養課題改善に寄与した功績で、田村シゲさんが厚生労働大臣表彰に輝きました。

田村さんは、病院の管理栄養士、公民館活動の講師、県や市の保健事業の協力者などの立場で、50年以上にわたり地域の栄養課題の解決や地元の食材を生かした郷土料理の普及に努め、食生活の改善や食育活動の普及に貢献しました。特に、昭和40年代に実施した出機（でばた）に従事する女性の栄養調査とその後のケア、さまざまな分野での郷土料理レシピ集の出版など、地域の栄養指導・文化伝承活動としての功績は多大です。

田村さんは、「自分に向いていること、できることをコツコツやっただけ。教えられることの方が多かったですよ。これからも、純粋なこの地域の子どもたちとかかわっていきたいですね」と静かにほほ笑みながら語りました。

厚生労働大臣表彰

田村恭子さん
（学校町1・69歳）

永年にわたり、職業訓練の発展に寄与した功績で、田村恭子さんが厚生労働大臣表彰に輝きました。

田村さんは、昭和48年に十日町和洋裁高等職業訓練校で校長として和洋裁の教鞭（きょうべん）を執るとともに、十日町服飾専門学校の理事長としても人材育成に尽力し、和洋裁の技術発展と産業振興に貢献してきました。また、自ら社業を営み、高校や生涯学習学級の講師、調停委員も務めるなど、その活躍は多岐にわたります。

田村さんは、「社会で生かせる技術をはぐくむことが大切です。製造技術はもとより、現在では顧客のニーズを的確に捉え、商品に反映させるスピードとデザイン感性を培うことも大切です。若い人は無限の可能性を持っています。それを引き出し育てるのも私の役割だと思っています」と学生に温かいまなざしを注いでいました。

日本公衆衛生協会会長表彰

登坂健二郎さん
（駅通り・79歳）

永年にわたる公衆衛生事業への功労で、登坂健二郎さんが㈶日本公衆衛生協会会長表彰を受賞しました。

登坂さんは、昭和31年から約50年間にわたり十日町市内の小中学校の学校医（眼科担当）として学校保健の充実に尽力しました。また、昭和61年から63年にかけて十日町市中魚沼郡医師会長を務めました。登坂さんは、「今79歳で、普通だったら一線を退く年齢ですが、これからもできる限り頑張っていきたい。50年前、学校医として一番の問題はトラコーマでしたが、今は近視や遠視などの屈折異常が中心になりました。また、最近はコンタクトレンズを使用する子どもが増えましたが、ルールを守らずに使って、目を傷つける子もいるので注意してもらいたいですね」と話していました。

日本公衆衛生協会会長表彰

大坪泰男さん
（四日町新田第２・73歳）

永年にわたる公衆衛生事業への功労で、大坪康夫さんが㈶日本公衆衛生協会会長表彰を受賞しました。

大坪さんは、中条病院に勤務する傍ら、昭和42年から市の予防接種事業に精力的に取り組みました。また、昭和57年からは学校医、60年からは保育園の嘱託医として学童・幼児の健康診断に従事し、養護教諭などの指導や相談役としても尽力しました。

そのほか、昭和42年に魚沼地域胃集団検診協議会が設立されて以来、38年にわたり胃がん検診の読影技術の向上に先導的な役割を果たすなど、胃がん発見率の向上のため功績を残しました。大坪さんは、「昔はたくさん予防接種がありましたから、時期になると中条小学校や遠くは枯木又分校など、毎日のように学校へ行っていたように記憶しています」と話していました。

日本食品衛生協会会長表彰

佐藤　茂さん
（寿町１・65歳）

永年にわたる食品衛生に対する功績に、佐藤茂さんが㈶日本食品衛生協会会長賞を受賞しました。

佐藤さんは昭和51年に十日町食品衛生協会十日町分会の指導員に任命されて以来30年間、食品衛生活動に尽力しました。また平成16年からは十日町分会長として活躍しています。佐藤さんは、「食品業界は食中毒が一番恐いので、行政の皆さんといっしょにこれからも頑張っていきたい」と話していました。

日本食品衛生協会理事長表彰

山田　清さん
（四日町・57歳）

永年にわたり、食品衛生指導に従事した功績で、山田清さんが㈶日本食品衛生協会理事長賞を受賞しました。

山田さんは昭和46年に十日町食品衛生協会十日町分会の食品衛生指導員に着任して以来35年間、毎年約50施設に及ぶ市内飲食店の巡回指導に当たっています。山田さんは、「食品衛生は、正しい知識の習得と実践が大切です。食を扱う者としての使命としてこれからも普及・啓発に努めたいです」と話していました。

県知事表彰（食生活改善功労）

関　タカ子さん
（山野田・60歳）

永年にわたり、食生活改善指導へ従事した功績で、関タカ子さんが県知事表彰を受賞しました。関さんは昭和49年に魚沼高等職業訓練校で栄養学の講師として勤務後、栄養士として地域の食生活の指導などで活躍し、昭和61年から平成14年まで、栄養士会十日町支部副支部長を務めました。関さんは、「今回の表彰は自分に対する叱咤（しった）激励と受け止めて、これからも皆様のご協力を得ながら頑張っていきたい」と話していました。

第五十八回

十日町雪まつり

四季あざやかな十日町市にとって、冬は全国に誇る雪のおまつりイベントが市内各所で行われる楽しみの多い季節です。来年2月16日㈮夕方～18日㈰には、第58回十日町雪まつりが開催されます。各地域の冬のイベントとの相乗効果を図りながら、新市の人々が一体となって盛り上がることのできる、冬の一大イベントを目指しています。ぜひご参加ください。

音と光の雪上カーニバルをお楽しみください

姉妹都市イタリア・コモ市のシンボルである大聖堂を模した雪の巨大ステージを舞台に、音と光の一大スペクタクルを繰り広げます。

ゲストには、水森かおりさん、華原朋美さん、北山たけしさんらを迎え、カーニバルに華を添えます。感動のステージをぜひご覧ください。入場整理券は実行委員会事務局へお問い合せください。

水森かおり

華原朋美

北山たけし

©Albirex cheer leaders
アルビレックスチアリーダーズ

■日　時　**２月17日㈯午後６時～**（予定）
■会　場　城ケ丘ピュアランド（十日町駅から徒歩約20分）

お知らせ

- ◆雪上カーニバルにあわせて、それぞれ新潟駅・大宮駅発着の臨時特別列車が運行されます。
- ◆会場内はすべては立ち見となります。
- ◆会場での傘の使用はできません。
- ◆夜間は冷え込むことがあります。温かい服装でお越しください。

楽しい催し盛りだくさん!!

十日町雪まつりは、雪上カーニバル、雪の芸術展、おまつりひろばの3本柱をはじめ、さまざまなイベントが企画されています。これまでに開催が決まったイベントの概要をいくつかお知らせします。

オープニングフェスティバル2007

3日間の開幕を告げる一大イベント。■**日時**：2月16日㈮午後6時30分～■**会場**：コミュニティひろば（十日町高校グラウンド）

ウェルカムセレモニー

友好都市（横浜、指宿ほか）のミスの皆さんの紹介、雪の芸術作品展表彰式など。■**日時**：2月17日㈯午後1時～■**会場**：コミュニティひろば

おまつりひろば

雪国情緒たっぷりのひろばが市内各所に登場します。雪上茶席、郷土芸能、雪上運動会など楽しい冬の休日をお過ごしください。

ツマリアンボール

十日町雪まつりが発祥となる、人気のスノーフィールドバレーボールです。■**日時**：2月18日㈰午前9時～■**会場**：コミュニティひろば

雪まつりゲーム大会

親子で気軽に参加できるゲーム大会です。■**日時**：2月18日㈰午前11時30分～午後0時30分■**会場**：コミュニティひろば

キャラクターショー

子どもたちに大人気のボウケンジャーによるステージと撮影会です。■**日時**：2月18日㈰午前と午後の2回■**会場**：コミュニティひろば

©2006 テレビ朝日・東映AG・東映

アニマル浜口さん参加決定

アニマル浜口さん（右）

十日町市観光大使のアニマル浜口（浜口平吾）さんが、今回も雪まつりに参加します。

雪像制作団体・ひろば開設団体募集中

おまつりひろばの開設団体、雪の芸術作品・雪の街角作品の制作団体を募集しています。昨年の実施団体には代表者あてに申込み書類を郵送済です。新規希望団体は雪まつり事務局にお問合せください。

(1)**おまつりひろば**　地域コミュニティの活性化にぜひご参加ください。
(2)**雪の芸術展**　①芸術部門②特別部門③学童部門の３部門です。芸術部門のみ審査対象となります。
(3)**雪の街角作品**　小グループでの雪像制作に適したコンテストです。
●**申込み用紙**　雪まつりホームページまたは雪まつり事務局で
●**応募締切り**　おまつりひろば：12月20日㈬　雪の芸術展・雪の街角作品：１月10日㈬

ミス十日町雪まつりコンテスト参加者募集中

十日町市の親善大使として活躍していただく、きもの美人を募集中。ミス十日町雪まつりに選ばれた３人からは１年間、市の観光ＰＲに活躍していただきます。

●**応募資格**　県内在住または県内に帰省地のある満18歳以上の未婚女性（高校生を除く）。ただし、ほかのミスコンテストに入賞し、任期中の人は応募できません。
●**賞　　品**　振袖、グアム旅行、ダイヤリング、液晶テレビ、iPod nano（2GB）、魚沼産コシヒカリ、ディズニーリゾート１日パスポート券ほか
●**応募締切り**　１月27日㈯午後５時（申込書必着）
●**審査方法**　(1) 予選会（書類審査）　本選会に進む14人を選出
(2) 本選会出場者説明会　２月11日㈰
(3) 本選会（振袖姿を審査）２月18日㈰　※公開審査
●**申込み用紙**　雪まつりホームページまたは雪まつり事務局で

■申込み・問合せ　十日町雪まつり実行委員会事務局（本町２　本町分庁舎内）☎757-3100
ホームページ　http://tokamachikankou.jp/58yuki/

全国大会開催の運営拠点施設が完成！

十日町市吉田クロスカントリーハウス

今冬から3年間にわたり行われるクロスカントリースキー全国大会の運営拠点となる施設「十日町市吉田クロスカントリーハウス」（吉田クロカンハウス）が完成しました。完成式は12月2日㈯に同施設で行われ、関係者に披露されました。

吉田クロカンハウスは、市内小泉の吉田クロスカントリー競技場内に建設されました。鉄骨3階建で延べ床面積は約360㎡、1階にはピロティ、更衣室、トイレ、2階にはボランティアルーム、救護室、休憩室、トイレなど、3階には研修室、サロン室、トイレなどが配置されています。6月から工事が進められ、総工費は約6、000万円、そのうち5、775万円は㈶日本宝くじ協会の助成（平成18年度各種施設助成事業）を受けています。11月下旬から国体準備室が業務を開始しており、隣接する競技本部棟とあわせて主に今後行われるクロスカントリースキー全国大会の大会運営拠点施設として活用されます。

完成式は12月2日㈯に行われました。式にはトキめき新潟国体冬季大会等十日町市実行委員会や十日町市スキー協会の関係者など約40人が出席し、吉田クロカンハウスの完成を祝いました。

トキめき新潟国体冬季大会十日町市スローガン決定！

「駆け抜けろ　越後妻有の白き大地を」

トキめき新潟国体冬季大会スキー競技会クロスカントリー競技の十日町市スローガンが決定しました。2009年のトキめき新潟国体に向けて、さまざまなＰＲに活用していきます。

136人から198点もの応募が

９月11日から10月10日までの募集期間に、小学生88人を含む136人から198作品もの応募が寄せられました。市内はもとより市外からも応募がありました。

最優秀賞に高橋信生さん

スローガンの審査は、トキめき新潟国体冬季大会等十日町市実行委員会の総務・広報・財務専門委員会広報小委員会（小委員長：田村邦夫十日町市観光協会長、委員15人）があたりました。応募作品が多かったことなどから審査は第三次まで及ぶなど、厳正なる選考が行われました。その結果、最優秀賞には高橋信生さんの作品が選ばれました。審査結果は左下のとおりです。

吉田クロカンハウス完成式で発表・表彰式

スローガンは、12月２日㈯に行われた吉田クロカンハウス完成式で実行委員会会長の田口市長から発表されました。また、表彰式も行われ、最優秀賞・優秀賞に選ばれた４人に、賞状とトキめき新潟国体のマスコットキャラクター「トッキッキ」のぬいぐるみがプレゼントされました。

左から春川さん、高橋（信）さん、田口市長、高橋（ミ）さん、大渕さん

十日町市スローガン最終審査結果

最優秀賞　高橋信生さん（新座第４-１・49歳）
作品「熱く駆け抜けろ　妻有の白き大地を」（原作）
※十日町市のスローガンは原作を一部変更して使用

優 秀 賞　高橋ミチ子さん（高山第３・68歳）
大渕　航さん（十日町高校３年）
春川稔弥さん（東小学校６年）

問合せ　トキめき新潟国体冬季大会等十日町市実行委員会（市国体準備室内）☎752-3103

今年の冬はここで決まり！

近くて楽しい市内のゲレンデ

松代ファミリースキー場

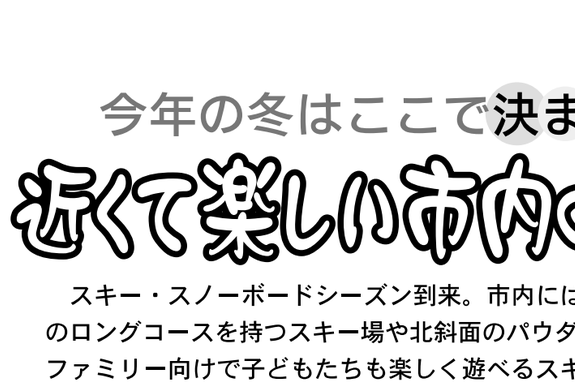
スキー・スノーボードシーズン到来。市内には、地形を生かした自然いっぱいのロングコースを持つスキー場や北斜面のパウダースノーを満喫できるスキー場、ファミリー向けで子どもたちも楽しく遊べるスキー場などいろいろあります。スキーヤーからスノーボーダーまで、またビギナーからエキスパートまで満足すること間違いなし。スキーのあとは地域の温泉で暖まるのも最高です。

❄松之山温泉スキー場

◆**ゲレンデオープン**　12月23日（天皇誕生日）
◆**リフトチケット**　１日券：大人3,000円・子ども2,500円、半日券：2,000円（大人・子ども）、１回券：300円（大人・子ども）※シーズン券あり
◆**スノーイベント　ゲレンデオープン（リフト券無料）**…12月23日（天皇誕生日）、**新春もちつき大会**…19年１月２日㈬、**松之山温泉スキー場カーニバル**…19年３月18日㈰、そのほかだれでも参加できるスキー大会や全日本公認スキー大会など盛りだくさん
◆**場　所**　天水島
◆**問合せ**　松之山温泉スキー場☎596-3133

❄松代ファミリースキー場

◆**ゲレンデオープン**　12月23日（天皇誕生日）
◆**リフトチケット**　１日券：2,500円（大人・子ども）、半日券：1,800円（大人・子ども）、１回券：150円（大人・子ども）※シーズン券、ナイター券、団体割引あり
◆**スノーイベント　ゲレンデオープン（リフト券無料）**…12月23日（天皇誕生日）、**ジュニアナイターサーキットin松代**、**スキー・スノーボードクロス大会in松代**…19年２月・３月中旬
◆**場　所**　千　年（まつだい駅から車で3分）
◆**問合せ**　松代ファミリースキー場☎597-3330



❄上越国際当間スキー場

◆**ゲレンデオープン**　12月23日（天皇誕生日）
◆**リフトチケット**　１日券：大人4,000円・子ども3,500円、半日券：大人3,000円・子ども2,500円、１回券：400円（大人・子ども）※シーズン券、ナイター券、シルバー券、障害者１日券あり
◆**スノーイベント　当間カーニバル**…19年３月10日㈯、**十日町・当間カップＧＳ大会**…19年３月21日（春分の日）
◆**場　所**　当　間
◆**問合せ**　上越国際当間スキー場☎758-3291

❄中峰スキー場

◆**ゲレンデオープン**　19年１月２日㈮
※営業は土・日曜日、祝日、１月３日㈭～５日㈯
◆**リフト（Ｔバー）**　１日券：大人1,000円・子ども800円
◆**スノーイベント　スキーの集い・グレステンカップスキー大会**…19年３月上・中旬
◆**場　所**　貝ノ川
◆**問合せ**　下条公民館☎755-2004

❄なかさと清津スキー場

◆**ゲレンデオープン**　12月28日㈭
※営業は土・日曜日、祝日、12月29日㈮～１月３日㈬
◆**リフトチケット**　１日券：大人3,500円・子ども3,000円、半日券：大人2,000円・子ども1,500円、１回券：400円（大人・子ども）※シーズン券、シルバー券、障害者１日券あり
◆**スノーイベント　なかさと雪原カーニバル**…19年３月10日㈯、**スキーこどもの日（12歳以下の子どもはリフト券無料）**…毎月第３日曜日
◆**場　所**　市之越
◆**問合せ**　なかさと清津スキー場☎763-2778

❄中条柱スキー場

◆**ゲレンデオープン**　19年１月中旬※営業は土・日曜日、祝日
◆**リフト（ロープ塔）**　１日券：大人1,000円・子ども500円
◆**スノーイベント　柱スキー場まつり・スラローム大会**…19年２月上旬
◆**場　所**　上　原　◆**問合せ**　中条公民館☎752-2748

湯米心まつのやま

松之山支所
596-3131

新たに名老8人認定
松之山 名老百選のつどい開催

松之山地域の名老百選事業では、9月6日㈬に「名老百選」選考委員会を開催し、新たに8人を名老に認定しました。この事業は、各分野で活躍しているおおむね70歳以上の高齢者を顕彰し、今後の活躍と良き指導者として後継者の育成にあたってもらうことを目的に制定されたものです。

11月22日㈬、名老が一堂に集う「名老百選の集い」が植木屋旅館で開催され、田口市長から新名老の一人ひとりに認定証が手渡されました。田口市長は「手仕事も大切な文化、これを伝達することも大切。地域のために頑張って次の人に伝えてください」とあいさつ。新名老の高澤哲治さんが「これからはプライドを持って歩んでいきたい」とお礼の言葉がありました。現在、76人の名老が地域で活躍しています。

田口市長と名老に選ばれた皆さん

新名老に認定された方は、次のとおりです。※敬称略

氏名（年齢）行政区・認定部門
- 若井庄三郎（75）小谷・わら細工
- 村山喜乙（72）上川手・歌舞伎
- 高橋イセ（79）天水島・民謡
- 高橋亀太郎（72）天水島・民謡
- 高橋武男（71）天水島・民芸品制作
- 高澤哲治（76）豊田・音楽
- 柳久作（77）下川手・ぜんまい栽培
- 高澤高一（77）湯本・民芸品創作

※高澤高一さんは10月に逝去しました。ご冥福をお祈りします。

「食育を考える」講演会開催

子どもたちの食生活について考えてみようと「食育を考える」講演会が11月17日㈮に松之山自然休養村センターで開催され、PTA関係者など約60人が参加しました。講師は県立女子短期大学教授の宮西邦夫さんで「子どもの体と心の健康と食事・運動習慣の関係について」と題し、自身の研究をもとに講演。「生活習慣病が低年齢化しているが、このままの食生活や運動不足が続くと将来が怖い。薬は一時的なもの、生活習慣を直すことが大切である。体の不調を訴える子どもは、食事が不規則。三食を規則正しく取ってほしい。予防には食事習慣の再点検が重要です」と語り、参加者は真剣に耳を傾けていました。

生活習慣病の恐ろしさを学ぶ

山村留学松之山学園で感謝祭

11月23日㈭、山村留学松之山学園感謝際が浦田克雪センターで行われました。この日は、現在松之山地域に２人いる留学生が地域の皆さんへの感謝と、一年間の成長を見てもらおうと企画したものです。

埼玉県から浦田小学校へ留学した４年の塚田一都さんは写真や録音した音などを使い「浦田と埼玉の違い」を発表。また、松之山中学校１年の石垣翔太さんは松之山の生活の中で気付き、少しずつ変わってきたことの発表と身長が10㎝伸び体重が５kg減ったなどの報告があり、担任の先生からは「体も心も余計なものが取れた感じがします」と感想がありました。第２部では、参加した地元関係者30人とジンギスカンを囲んでにぎやかな交流が行われました。

１年間の成長を発表しました

かわに新聞

川西支所
768-3111

千手の収穫祭

11月25日㈯、千手中央コミュニティセンターを会場に「千手の収穫祭」が開催され、約８００人が集まりました。今回の収穫祭は千手地区集落協定のメンバーを中心に運営され、農業生産法人㈱千手と、千年の市で地産地消を進めているじろばた管理組合が協力しました。

収穫祭では食に関する講演会が行われ、午前の部では、県立女子短期大学講師で郷土料理研究家の丸山久子さんを迎えての「食と健康、郷土食には知恵がある」を開催。丸山さんは「食事は身体を作っていくだけでなく、心の成長や栄養として重要な役割を担っている。郷土食は地域の財産、日常の食を大切にし、従来から食べ続けられているものを日常生活のなかに取り入れていくことも必要です」と語りました。

医食同源が大事と語る早川さん

午後の部では、元新潟大学教授で農学博士の早川利郎さんを講師に「土作り、美味しいものには訳がある」が行われました。「医食同源・薬食同源の思想の元で、食を生活の中心に置いて、『食』こそ予防医学の根源ととらえ、バランスのよい土壌から育った地元のおいしい農産品を食べることにより、本当の意味での長寿を達成することも可能です」と食の大切さを話しました。

屋外では、地元の野菜やじろばたで取り扱っているアンブやおやき、ソバを油あげで包んだソバいなりなどが販売されたほか、もちつきや福まき、水ヨーヨーなども行われ、終日子ども連れなどでにぎわっていました

まちづくりだんぎを開催

11月26日㈰、千手中央コミュニティセンターで座談会「まちづくりだんぎ」が開催され、川西地域の市議会議員と市民約60人が参加しました。

市民の有志が実行委員会を組織し、企画・主催したこの座談会は、パネルディスカッション形式で開催されました。前半は市議会議員から、合併後1年半が経過した川西地域の現状と課題が報告されたあと、「教育」「福祉」「農業」「地域の活性化」などのテーマに沿って、活発な討論を展開。後半は魅力ある地域づくりに向けた取り組みや地域特性を生かしたまちづくりへの提案など、熱心な意見交換が行われました。こうした市民活動が今後も継続され、「協働のまちづくり」への大きな力となることが期待されています。

活発な意見を交わす参加者

千手温泉千年の湯 5周年感謝祭

11月23日（勤労感謝の日）、千手温泉千年の湯で、日ごろ千年の湯を利用している皆さんへの感謝と、リニューアルオープン5周年を記念した感謝祭が行われました。

感謝祭では、屋台テント村や無農薬コシヒカリの味を体験するコーナー、きねつきもちの振る舞い、ダンスチーム「風美舞天神」による記念演舞など盛りだくさんの内容で行われました。また、午後からは、「大福まき大会」が行われ、好天にも恵まれた秋祭りのトリを飾るにふさわしい感謝祭でした。

千年の湯は、源泉１００％掛け流しの日帰り温泉施設として人気があり、今年4月には、リニューアル後4年5か月で入館者１００万人を達成するなど、川西地域のにぎわいの中心施設でもあります。

お待ちかねの大福まき大会

ときめきネットワーク ⑱

支えあうきずな　大切にしたい

大口　衣吏子 さん
1984年生
レストラン　オガワヤ勤務

先月の藤巻弘樹さんからバトンタッチ。

お店が通りに面しているから、十日町のにぎわいを目の当たりに感じます。きものまつりや雪まつり、特に今年は大地の芸術祭もあって大勢の人とも出会えました。

学校を卒業したとき、十日町市を出て生活することはまったく考えていませんでした。まちのにぎわい、そして友だちや家族、職場の人、好きな人がいっぱいいて、私を支えてくれるからです。家で飼っているペットもそう。犬1匹と猫6匹。家族も同然です。犬は、後ろ足が1本ない障害犬です。でも、ものともせずにたくましく生きている姿に、時折私も励まされます。動物も人間と対等だと思います。命の重さは同じです。

お店のメニューもそうだけど、家庭料理にも興味を持って挑戦しています。将来に備えての飛行訓練ってとこかな。これからの季節、冬期限定の手作りホットケーキはお勧めです。私も心を込めて作ります。

光ケーブルネットワークで地域が変わる

VOL.13

◆問合せ◆
総合政策課
情報政策係
☎757-3111
（内線233）

■告知端末機について（1）

現在、市内全戸に配布することが検討されている「告知端末機」について説明します。告知端末機は中里・松代・松之山地域の全世帯に配備されていて、大きめのラジオのような形をしています。告知端末機にはいくつかの機能がありますが今回は、いざというときに全世帯に一斉にお知らせすることができる「一斉告知機能」について説明します。

◆一斉告知機能

一斉告知機能の活用には大きく分けると「防災上の機能」と「お知らせ機能」があります。

おととしの中越大震災や昨年の水害・大雪と、大きな災害が続いた際に、避難場所や水、救援物資の配給情報、道路の復旧状況など、生活に密着した情報が届かなかったため、不安になった人もいると思います。このようなときに告知端末機があれば災害情報や復旧情報を一斉にお知らせすることができます。また、最近の住宅は高気密化されてきているので集中豪雨や大雪のときに、広報車や屋外拡声器による情報伝達では屋内に放送が届きにくい状況になることがあります。そのようなとき、告知端末機では各家庭内で確実に情報を受けることができます。また、大規模災害だけでなく、平常時の大雨・土砂崩れなどの注意情報の伝達も地域の安全・安心のために重要だと考えています。

中里地域の告知端末機

お知らせ機能も重要です。昨年実際にあった話ですが、市内の個人商店で「光ケーブルに変わるので今までの電話が使えなくなる」と偽った説明で高額な電話機ローンを組まされる被害がありました。回覧板では伝達に1週間近く時間がかかりましたが、告知端末機のある所では、すぐに注意連絡を出すことができました。このほかにも不明者の捜索など緊急にお知らせしたいことがあっても、合併に伴って広範囲になった十日町市では、一斉にお知らせすることも難しい状況ですので、告知端末機の必要性は益々高まっています。

※次回は告知端末機について（2）をお知らせします。

あいどるキャッチ

村山　絢 ちゃん
むらやま　じゅんちゃん
平成17年10月11日生まれ
湯本

「わんわん」「バイバイ」最近話し始めたばかりのじゅんちゃんは、テレビのコマーシャルが大好きです。２歳上のおにいちゃんとけんかしても、負けていないパワフルじゅんちゃんです。

小巻沢　勇樹 ちゃん
こまきざわ　ゆうきちゃん
平成15年12月3日生まれ
新宮第1

お兄ちゃんの影響でドラゴンボールＺが大好きなゆうちゃん。中でも１番のお気に入りはベジータです。保育園では粘土でお料理を作って、みんなにごちそうしてくれるにこにこ笑顔のゆうちゃんです。

元気予報

問合せ　健康支援課地域医療係
TEL757-3111（内線127）

はたちになったら献血を
～献血は皆さんの善意でまかなわれています～

「はたちの献血」キャンペーン

成人式を迎える「はたち」の若者を対象に、献血思想を普及するとともに、献血者が減少しがちな冬期の献血者の確保を目的として、1月1日から2月28日までの間「はたちの献血」キャンペーンが全国一斉に実施されます。

血液の需要が増加する一方で、献血可能な16歳から69歳未満の世代が減少し血液の不足が懸念されています。

血液は、人工的に造ることができません。すべて健康な皆さんの善意の「献血」でまかなわれています。

献血バス・献血ルームを利用しましょう

市では、新潟県赤十字血液センターの献血バスで献血を行っています。

また、十日町市献血友の会の皆さんの積極的な推進活動をはじめ、市内の事業所単位でご協力をいただき、平成17年度は、市内30会場で延べ１、１１３人が、県内3か所の献血ルーム（新潟市2か所・長岡市1か所）で延べ６５５人の人から協力をしていただきました。

献血日程のお知らせ

市の献血日程は、健康カレンダー・市報・市のホームページでお知らせしています。

「はたちの献血」キャンペーン期間中は、左記の会場で献血バスによる献血を実施します。ご協力をお願いします。

1月10日㈬
十日町保健センター
午前9時30分～11時30分
十日町地域振興局
午後1時～3時30分

献血ルームの場所などは、新潟県赤十字血液センターのホームページwww.niigata.bc.jrc.or.jp で見ることができます。また、市のホームページ「献血」→「献血カレンダー」からもアクセスできますのでご利用ください。

外国青年招致事業（JETプログラム）で総務大臣表彰

英語教諭とALT（外国人の英語指導助手）の積極的な関わりを深めることにより、生徒の英語力の向上や国際理解教育に大いに貢献したことが認められ、吉田中学校（近藤喜祐校長）がJETプログラム20周年功労者として総務大臣表彰を受賞しました。

JETプログラムは、全国の地方自治体が外務省や総務省などと協力して諸外国の若者を日本に招致し、中学校や高校で外国語やスポーツなどを教えたり、国際交流のために働いたりする機会を提供する事業です。外国語教育の充実と地域レベルでの国際化の推進を目的に昭和62年から開始され、十日町市では平成13年度から、同中学校では平成14年度から取り組み、その功績が認められました。

収穫まつりで食を考える

11月18日㈯、クロス10で越後妻有収穫まつり（NPO法人魚沼ゆうき主催）が開催され、邦楽コンサートやもちつきなど、さまざまな催しが行われました。また、「食の安全と伝統文化を語る」と題したパネルディスカッションでは、食や農業などの分野で活躍するパネリスト4人がそれぞれの取組を披露。魚沼ゆうき代表の山岸勝さんは、無農薬で行う有機農業について、「資源を生かし、循環させる有機農業は地域社会全体で協力する体制が必要です」と語りました。

民謡舞踊大競演～うたとおどりの祭典～

師走の恒例行事となった、市民謡協会と市舞踊協会主催による民謡舞踊大競演会「うたとおどりの祭典」が、12月３日㈰クロス10大ホールを会場に開催されました。

今年で22回を数えるこの競演会には、市内外の37の民謡・舞踊団体と個人、合わせて約250人が参加しました。午前９時の「天神ばやし」のオープニングを皮切りに、午後４時までの間、「シャンシャン馬道中唄」や「大漁唄い込み」など、81もの演目の民謡と舞踊が披露され、会場を埋めた1,000人を越す大観衆からは演目ごとに大きな拍手が送られていました。最後に、十日町小唄の歌と踊りが披露されフィナーレとなりました。

まちの話題 TOWN TOPICS

このコーナーは、まちの話題や活動などを紹介しています。情報がありましたら、総務課広報広聴係（☎757―3111内線213）へ、お気軽にお寄せください。

人と自然と共に10周年　あてま同窓会

11月18日㈯、ベルナティオフォーラムセンターを会場に、あてま同窓会が開催され、歴代関係者など約50人が集いました。平成８年10月の当間高原リゾートベルナティオ開業から10年。当間の自然や地域の文化、人々とふれあう中でにぎわいのあるリゾートにしていくため、「あてまフォーラム」はさまざまなイベントを展開してきました。同窓会では、初代社長の梅田健次郎さんと交流団体であるフォーラム鹿島の元代表世話人土井敏行さんによる講話に次いで、会社、地域、行政などの関係者６人が、リレートークでこれまでの足跡をたどりながら、あてまの未来について語り合いました。

松代子ども消防隊が火の用心

11月９日㈭から15日㈬までの秋の火災予防週間に、地元の小学生が松代方面隊の消防団員とともに夜間広報活動を行いました。参加したのは松代・孟地・奴奈川小学校の３・４年生36人で、児童たちはそれぞれの地区の消防車に乗り込み、自分で考えてきた火災予防の広報文を、マイクを使って呼びかけました。また、期間中には松代地域の情報無線で、各小学校の児童が作った防火に関する標語も全世帯に放送され、冬に向けた防火への啓発活動も行いました。

中条小学校枯木又分校閉校式

11月18日㈯、十日町市立中条小学校枯木又分校（高橋健一校長）の閉校式が同校の体育館で行われ、学校関係者や地域住民合わせて約120人が出席しました。枯木又分校の歴史は明治15年に新水校からの派遣授業に始まり、明治28年に枯木又分教室として開校しました。その間、地域の中心施設として住民と一体になった学校運営が行われてきました。しかし、児童の減少をきっかけに中条小学校との統合が決定され、来年３月にその歴史を閉じることとなります。式典で、枯木又分校最後の卒業生となる春川佳穂さんは、「分校での６年間の思い出を胸に頑張っていきます」と話しました。

研究発表　こども里山学会

11月29日㈬、松之山自然休養村センターで理数大好きモデル地域事業「第４回こども里山学会」が開催され、松代地域、松之山地域の小・中学生が個人やグループで研究した成果を発表しました。研究は、稲作やブナ林など食と環境をテーマにしたものが多く、自然豊かで農業が盛んな地域性を反映。中にはつる性植物が巻き付いていくメカニズムをさまざまな角度で検証するなど、大人も「う～ん、なるほど」と感心する研究も披露されました。

インドネシアから夏の使者

11月30日㈭、インドネシア共和国のボゴール市から、ラオデ・アルベルト・プリバディ議会議長ほか観光局の職員など4人が十日町市を訪れました。ボゴール市は首都ジャカルタから南東へ60㎞にある人口80万人の都市です。今回の訪問は、互いの交流と観光、産業誘致へのPRとして訪れたもので、プリバディ議長は「日本が冬のときインドネシアは夏です。ぜひ避暑地ボゴールに来てください」と話していました。

日本農業賞県最優秀賞　妻有畜産グループ

第36回日本農業賞集団組織の部で、十日町市と津南町の養豚農家10人で組織する妻有畜産グループ（田中勤代表）が新潟県最優秀賞（県代表）を受賞しました。妻有畜産グループは昭和60年に結成。株式会社を設立して飼料・資材の共同購入や豚肉の共同販売を進めるとともに、徹底した防疫衛生管理による安全・安心ブランド「妻有ポーク」を確立しました。市内の学校給食の豚肉はすべて妻有ポークでまかなわれています。代表の田中さん（姿第１・52歳）は、「これからも、みんなで協力して安心・安全なものを作り続けます」と受賞の喜びを語りました。

年末年始の市の業務

年末年始の市やごみ収集などの業務状況、市の各施設の休館状況などをお知らせします。

◆市役所・各支所
12月29日㈮～１月３日㈬は業務を休みます。

ただし、本庁の市民生活課・税務課・保険年金課・水道局・会計課の窓口は、29日㈮午前８時30分～午後５時15分は業務を行います。また、各支所は市民生活課市民係のみ29日㈮午前８時30分～午後５時15分は業務を行います。
※30日㈯は業務を行いません。

◆中央公民館・各公民館・千手中央コミュニティセンター
12月29日㈮～１月３日㈬休館

◆博物館
12月27日㈬～１月４日㈭休館

◆総合体育館・川西総合体育館・松代総合体育館
12月29日㈮～１月３日㈬休館

◆情報館
12月29日㈮～１月３日㈬休館

◆ごみ収集
12月31日㈰～１月３日㈬は、ごみ収集・焼却場の業務を休みます。12月30日㈯までは平常業務を行います。年末は大変混雑するので、ごみを持ち込む場合は早めにお願いします。ただし、事業系から排出された資源物の搬入は受け付けません。

●焼却場持ち込み時間
十日町・川西・松代地域：エコクリーンセンター＝午前８時45分～午後４時45分
中里・松之山地域：津南地域衛生施設組合ごみ処理場＝午前９時～午後３時（29日・30日のみ）

◆し尿汲み取り
12月29日㈮～１月３日㈬は業務を休みます。

雪処理にご注意・ご協力を

雪おろしに注意

雪おろし作業は安全を第一に考え、足もとには十分注意しましょう。作業をする際は隣接する家の人に声を掛け、お互いに協力し合いながら行いましょう。

屋根雪などの道路への投げ捨ては禁じられています。やむをえず道路に投げ捨てたときは、速やかに片付けてください。落雪式屋根の軒下には絶対に立ち入らないでください。

雪おろし作業は個人で対応してください。雪おろしで困ったときは、克雪維持課または防災安全課に相談してください。

非常口の確保と事故防止

火災などの緊急時に備え、建物の非常口を確保しましょう。防火水槽や消火栓の除雪を行いましょう。

家の周囲での雪壁崩落や消雪池・流雪溝への転落事故も少なくありません。十分注意しましょう。

除雪機械に近寄らない

除雪作業をするときは必ず誘導員を付けましょう。除雪作業中は必ず誘導員の指示に従ってください。

小型除雪機の事故が毎年多発しています。雪が詰まったときは必ずエンジンを切り、回転部（オーガ、ブロア）が完全に停止してから雪かき棒を使って取り除くなど、事故防止に努めましょう。

流雪溝の正しい使い方

①作業中は流雪溝のふたが開いていることを知らせるため、赤い旗を掲示してください。作業終了後は速やかにふたを閉めてください。
②転落防止のため、ふたに付けてある十字枠は絶対に外さないでください。
③道路の中央に設置してある投雪口を利用するときは、必ず誘導員を置いてください。
④河川への投雪は水上がりの原因になるのでやめてください。

みんなで気配り運転

除雪道路は駐車禁止です。除雪作業の迷惑にならないようにしましょう。運転者は水はねなどで歩行者に迷惑をかけないよう気配りある運転をしましょう。

降雪・積雪状況により、交通規制が行われることがあります。ご理解ご協力をお願いします。

雪崩にあわないために

気温が低く降雪が続く時期や融雪期には、雪崩が起こりやすくなっています。雪山の登山やスキー場などでは特に注意し、危険な場所には近づかないようにしましょう。

雪崩の兆候や危険な場所を見つけたら、すぐに避難して、克雪維持課・各支所建設課または地域振興局地域整備部へ連絡してください。

問合せ
▼克雪維持課克雪利水係（内線２７３）
▼防災安全課防災安全係（内線１７２）

NTT・東北電力からのお願い

◆メーター周りを除雪してください。屋根の雪おろし作業をするときは、電線・電話線の切断に注意してください。冬期間は、雪による電話線の故障が多くなり、修理に行くまで時間がかかることがあります。
◆ロータリー除雪車などで除雪作業をするときは、雪を電線・電話線・変圧器・メーターの方向に飛ばさないでください。
◆変圧器や電線に触れると感電する恐れがあります。電線が切れて路上などに落ちていても、絶対にさわらないでください。見つけたときは至急東北電力までお知らせください。

●**問合せ**＝NTT東日本新潟南魚沼サービスセンター☎025-778-1616、東北電力㈱コールセンター☎0120-175-366

水道の凍結などに防寒対策を！

２年続きの豪雪と冷え込みで冬期間、凍結による屋内外の水道管や蛇口の破損事故が多く発生しました。給水管や蛇口などの破損事故の修理費と水道料金は使用者の負担になります。しばらく留守にするときは、メーターボックス内の止水栓を閉めるなど凍結や破損事故に備えましょう。

◆**凍結防止対策**…凍結しやすい箇所に保温材を巻いてください（発泡スチロールなど水を吸収しない素材が有効です）。
◆**破裂したとき**…メーターボックス内の止水栓を閉じてから、指定工事店に修理をお願いしてください。
一部地域を除き冬期間も検針を行います。メーターボックスの上に物を置かないでください。

●**問合せ**＝水道局維持係☎757-3115（内線95）
西本町３丁目（下水処理センター内）

GUIDE

GUIDE

お知らせ・ガイド
市役所 TEL 757-3111

催し

親子でキッドビクス

●**日時**＝1月14日㈰午前11時～正午●**会場**＝総合体育館●**参加費**＝施設使用料200円または定期券（保護者のみ）●**対象**＝3歳～未就学児の親子●**定員**＝40組（先着順）※寒くない服装で参加してください。運動靴不要●**申込み・問合せ**＝総合体育館（☎752―4377）

親子遊びで育つ！6歳までの基礎運動能力講座

●**日時**＝1月25日㈭午後7時30分～8時45分●**会場**＝総合体育館●**参加費**＝施設使用料200円または定期券●**対象**＝保護者または幼児教育者など興味のある人●**定員**＝50人（先着順）●**内容**＝簡単な実技と学科の講習※子ども連れでも参加できます。目の届く範囲で参加してください。運動靴不要●**申込み・問合せ**＝総合体育館（☎752―4377）

10年前の川西町がよみがえるビデオ上映会と川西中学校ミニコンサート

10年前の旧川西町40周年記念で、タイムカプセルに収納したビデオテープの公開や現在の川西地域の名所・行事などを紹介する上映会、川西中学校吹奏楽部のミニコンサートを行います。●**日時**＝12月17日㈰午前10時～11時30分●**会場**＝千手中央コミュニティセンター●**入場料**＝無料●**定員**＝250人●**問合せ**＝川西ビデオクラブ・高橋（☎090―9015―4954）

シルバー技能講習会

60歳以上の高齢者の雇用と就業の機会を確保するため、技能講習会を開催します。●**申込み・問合せ**＝㈳シルバー人材センター（☎757―5708）

【しめ縄作り講習会】

①●**日時**＝12月15日㈮午後1時30分～●**会場**＝サンクロス十日町②●**日時**＝12月19日㈫午前9時30分～●**会場**＝中里老人福祉センター光永館

【介護講習会】

●**日時**＝1月24日㈬午後1時30分～●**会場**＝サンクロス十日町

市民書初め大会

●**日時**＝19年1月21日㈰正午～3時30分●**会場**＝クロス10●**参加費**＝500円（当日徴収）●**申込み**＝12月25日㈪までに申込書（書道教室・各公民館に配置）を各公民館に提出●**問合せ**＝市書道協会・小川（☎757―4751）

川西元旦卓球大会

●**日時**＝1月1日（元日）午前9時～（受付8時30分）●**会場**＝川西総合体育館●**参加費**＝一般1、000円・小・中・高校生500円●**申込方法**＝12月10日㈰までに申込書（川西総合体育館に配置）を問合せ先へ提出●**問合せ**＝〒948―0136十日町市高原田405―23十日町市卓球協会・渡辺（☎768―2127・FAX768―4608）

公共的施設年末年始の営業状況

◆クロス10　12月31日㈰休館、1月1日（元日）～営業
◆キナーレ明石の湯　12月27日㈬正午～臨時営業、31日㈰午後8時まで、1月1日（元日）正午～、2日㈫～通常営業
◆キナーレ和装工芸館・体験工房館・きもの歴史館
12月31日㈰・1月1日（元日）休館、2日㈫～通常営業
◆松葉荘　12月30日㈯～1月2日㈫休館
◆千手温泉千年の湯
12月31日㈰午前10時～午後8時（最終入館7時30分）、1月1日（元日）午前8時～午後10時（最終入館9時30分）
◆ひだまりプール
12月22日㈮～1月3日㈬定期点検のため休館
◆光の館　1月4日㈭・5日㈮休館
◆ゆくら妻有　12月31日㈰午後9時30分～翌朝7時
◆まつだい農舞台
12月25日㈪～1月12日㈮休館※常設展展示替のため
◆芝峠温泉雪海　12月21日㈭より冬期営業になります。
食堂…平日午後5時（土・日曜午後6時）まで営業
日帰り入浴…午後7時まで営業　※水曜定休日
◆まつだいふるさと会館　12月31日㈰正午まで、1月1日（元日）～3日㈬午後5時まで営業
※森の学校キョロロ・湯処よーへり・ミオンなかさと・松之山温泉鷹の湯と上記以外はすべて通常営業を行います

募集

十日町市高等職業訓練校19年度生徒募集

能力開発をバックアップ。全教科とも国家資格を持った経験豊かな講師が指導にあたります。●**科目**＝▼建築製図（2級建築士養成）科▼コンピュータ科、ワープロ科（ワード入門・応用）、表計算科（エクセル入門・応用）、経理事務科、測量科●**申込み・問合せ**＝土・日曜日、祝祭日を除く3月5日㈪までの午前8時30分～午後5時に、入校申込書と証明写真を十日町市高等職業訓練・宮沢（☎752―3803）に提出

19年度奨学生募集

●**対象**＝次のすべてに該当する人①新潟県民の子で4年制大学に進学・在学する人②親を亡くした人③進学後の学資の支弁が困難な人●**募集人数**＝若干名●**奨学金額**＝月額2万円●**返還期間**＝卒業または貸与終了の翌月

福祉保健

第3子以降の出生祝金の支給

●**対象**＝第1、2子を現に養育し、第3子以降に出生した子を養育する父母●**祝金額**＝対象子1人につき50、000円●**申請期限**＝対象子の出生から6か月以内●**申込み・問合せ**＝市民生活課市民係（内線153）

石綿業務に従事した人への特別健康診断の申請期間の延長

過去に石綿を製造し、または取り扱う作業に従事し、事業場の廃業など何らかの理由で石綿健康診断を受診できない退職者に対して無料で行う健康診断の申請期間を12月28日㈭まで延長します。●**申込み・問合せ**＝㈳新潟県労働衛生医学協会（☎025―370―1960）ほか

年金

8月～11月分の児童扶養手当を振り込みます

離婚などにより父と生計を同じくしていない児童を養育している母など（養育者）に支給されます。8月～11月分の手当を12月11日㈪に振り込みます。●**手当額**＝受給者により異なるので証書で確認してください●**問合せ**＝市役所保険年金課年金係（内線168）または各支所市民生活課

その他

調理師就業届の提出を

飲食店や給食施設で働いている調理師は、2年ごとに就業届の提出が義務付けられており、今年度は実施年度です。12月31日現在の就業状況を19年1月15日㈪までに提出してください。●**提出・問合せ**＝十日町保健所（☎757―2400）

子どもたちの安全を守ろう！

最近、児童や女子学生などに対して怪しい声を掛けたり、後ろを付きまとったりする変質者事案が多発しています。保護者は、子どもの帰宅時間が遅くなる場合には迎えに行くように努めてください。また、できるかぎり暗やみを避け、懐中電灯や防犯ブザーなどを持ち歩くようにしましょう。不審者が現れたら、すぐに警察（110番）に通報してください。●**連絡先**＝十日町警察署生活安全課（☎752―0110）

【市報おわびと訂正】

11月25日号に誤りがありました。7ページ中の秋の叙勲で田村久策さんの文中、「天皇陛下に拝謁し」と記載すべきを「両陛下に拝謁し」と記載しました。28ページイチオシまっぷ中、松之山地域「松山鏡」の市報掲載号は、正しくは2006・10・25号でした。おわびして訂正します。

寄付ありがとう

11月30日届出分まで（敬称略）

●**十日町市へ**＝(宗)カトリック中央協議会カリタスジャパン(5,000,000円) 十日町総合高校生徒会（73,899円）
●**地域福祉基金へ**＝松代ゴルフ倶楽部（58,000円）
●**情報館へ**＝小野塚一（中央町）阿部昌義(寿町2) 村山東子(新座1) 庭野勇吉(高田町3西) 金子澄男(岩瀬) 庭野和代(十日町赤倉) 新潟県歌人クラブ（胎内市）安達香（長岡市）㈳小千谷青年会議所（小千谷市）木本有多可(府中市) 庭野栄松(足立区)
●**博物館へ**＝村山三枝（寿町1）阿部守太郎（川治上町）広田富子（小原）中町鼎（東京都港区）

あちこちだね

▼今、昨年の12月9日のことをすぐに思い出せる人はほとんどいないと思います。ですが、平成18年豪雪の積もり始めの日といえば、何となく憶えている人もいるのではないでしょうか。人間の記憶というものは、起こった直後よりも、その後何度も思い出す頻度でより具体的にまとまるものです。私自身、昨年の初めごろは10月23日が何の日かすぐに思い当たりませんでした。その後、思い出す回数が増えるにつれ、10月23日＝中越大震災という認識を持つに至りました。昨年12月の豪雪も、これから毎年初雪が降るたびにより具体的な記憶になっていく気がします。ちなみに、昨年の12月の豪雪の合間に晴れた日が何日かありましたが、あれは16～17日、20日、25日の4日間になります。（南）

▼10年ほど前に、寝たきりになっていた祖母から小遣いをもらいました。認知症も進んでいたのですが、子どもいる孫の私が幾つになってもかわいいと思う気持ちの表れだったのだろうと、今も思い起こします。子や孫をいとおしく思う気持ちは、どんなときも本能として持っている愛情です。▼先日、子どもが見せた便りは、文部科学大臣からでした。いじめによる子どもたちの自殺が相次ぐ中で、子どもと家庭にあてたものでした。今号には、いじめ・不登校に関する相談窓口を載せています。でも、本来最上段にくるのは、親や家族、学校です。あたりまえのことですが、話されやすい、話しやすいそんな相互の愛情が大事なんですね。（鈴）

■発行/十日町市役所　〒948-8501 新潟県十日町市千歳町3丁目3番地
E-mail info@city.tokamachi.niigata.jp URL http://www.city.tokamachi.niigata.jp TEL.025-757-3111 FAX.752-4635
■編集/総務課広報広聴係

ジュニア芸術祭

18

八箇小学校

海へ行ったよ

服部智子（ともこ）さん（2年）

夏休みに家族で海に行きました。私はお魚をつかまえようと、海にもぐったけど逃げられました。貝やカニもいて、海は楽しいです。一日中泳いでいたら夕日が海に映ってきれいでした。

おにく　にんじん　まてまて！

雲野瑠那（るな）さん（1年）

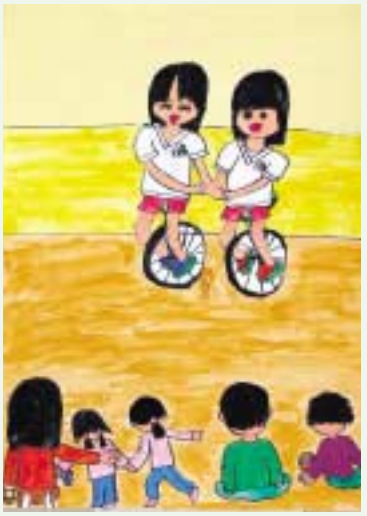
ウサギやキツネ、ネコが食べ物を追いかけています。前後にゆれるので、動物たちが楽しく遊んでいるようです。両わきの輪に入れたおもりを調節するのがむずかしかったです。

王さま　たんけんたい

齋木克晃（かつあき）さん（3年）

アフリカの森で迷子になった王様が、ライオンに乗って探検するお話です。たてがみを小さくして気の弱そうなライオンの表情にしたり、アフリカの家を想像したりして工夫しながら描きました。

成功した一輪車



服部麻衣（まい）さん（4年）

今年から一輪車の練習を始めました。最初はこわかったけど、9月ころにやっと乗れるようになって、文化祭で友だちと一輪車の芸をしました。これからも練習してうまくなりたいです。

すすめスラウギ号

齋木利希（としき）さん（5年）

ぼくは、「十五少年漂流記」を読んで、無人島で助け合いながら暮らす少年たちに感動しました。この絵は、帆船で漂流しているところです。力を合わせて悪者を倒すところがおもしろかったです。

八箇大橋の風景

齋木　悠（ゆう）さん（6年）

私が毎日通う八箇大橋の秋の風景です。草や木を明るくしたり暗くしたりして、秋の景色になるようにしました。橋の下の木や車庫を見下ろしたように描くのがむずかしかったです。

市民の動き

■人　口　62,745人（−64）　男　30,752人（−35）　女　31,993人（−29）
■世帯数　19,921世帯（−25）　11月末現在（　）は前月からの増減